

## 平成27年度 「中学生チャレンジテスト」における 南中学校の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成28年1月13日（水）に、第1学年と第2学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に生徒の学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

### 1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- ③ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

### 2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第1学年、第2学年
- ・ 南中学校では、第1学年35名、第2学年45名

### 3 調査内容

- ① 第1学年で、国語、数学及び英語  
第2学年で、国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

# 平成27年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 大阪市立南中学校

【 第 1 学 年 】

生徒数(人) 35

平均点（点）

|     | 国語   | 数学   | 英語   |
|-----|------|------|------|
| 学校  | 55.1 | 45.8 | 64.3 |
| 大阪市 | 60.4 | 49.7 | 62.2 |
| 大阪府 | 61.0 | 51.0 | 63.5 |

平均無解答率（%）

|     | 国語   | 数学  | 英語  |
|-----|------|-----|-----|
| 学校  | 11.5 | 7.3 | 3.7 |
| 大阪市 | 6.7  | 4.9 | 3.4 |
| 大阪府 | 6.3  | 5.0 | 3.5 |

結果の概要

平均点にも見えるが、無解答率でさらに本校独自の顕著な結果が出ていると思われる。

成果と今後取り組むべき課題

日本人生徒も含めて、読解力の伸長、その基礎となる語彙力と漢字能力の増強が重点課題となる。そのため漢字検定を利用し、現時点において各段階毎に達成可能な目標をたて、達成していくことで、さらなる学習モチベーションを高めていく。

【 第 2 学 年 】

生徒数(人) 45

平均点（点）

|     | 国語   | 社会A  | 数学   | 理科A  | 英語   |
|-----|------|------|------|------|------|
| 学校  | 46.0 | 52.8 | 55.3 | 40.3 | 60.7 |
| 大阪市 | 47.8 | 56.4 | 53.7 | 45.4 | 52.9 |
| 大阪府 | 49.2 | 56.5 | 54.7 | 46.5 | 54.8 |

平均無解答率（%）

|     | 国語   | 社会A | 数学  | 理科A | 英語  |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| 学校  | 14.6 | 7.6 | 7.3 | 6.5 | 3.1 |
| 大阪市 | 13.3 | 6.4 | 8.2 | 7.0 | 4.2 |
| 大阪府 | 12.4 | 6.5 | 8.0 | 6.9 | 4.1 |

結果の概要

1年と同じく、日本語そのものが解答とならない科目の平均点が高く、無解答率が低い。

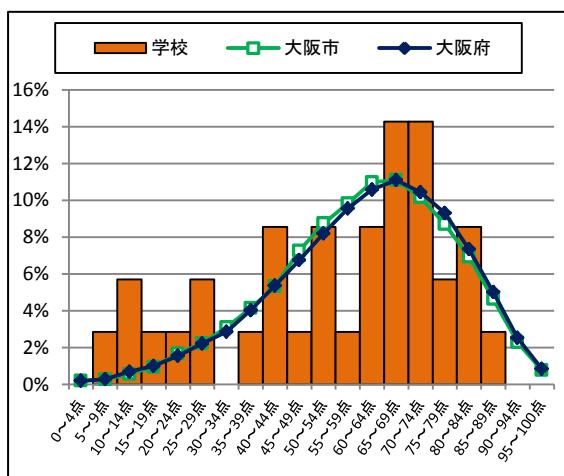
成果と今後取り組むべき課題

試験結果からわかるように本校生徒の学力は決して低くはない。日本語が原因となっている生徒には日本語を重点的に、そうでない生徒には習熟度別によって、さらに高いレベルの内容で授業を構成する

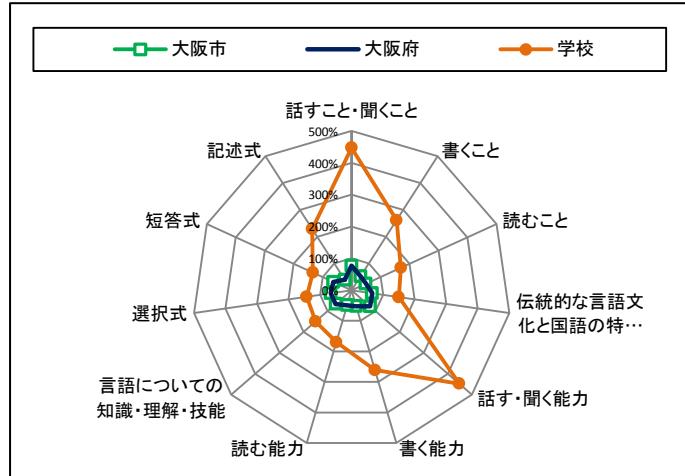
# 【第1学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

## 【国語】

### 【得点分布】

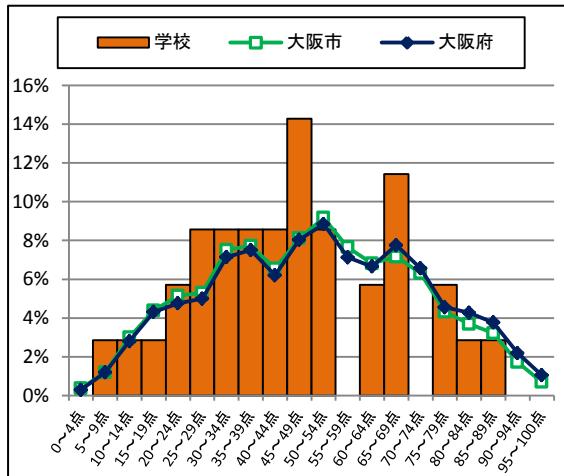


### 【領域・観点・問題別の分布】

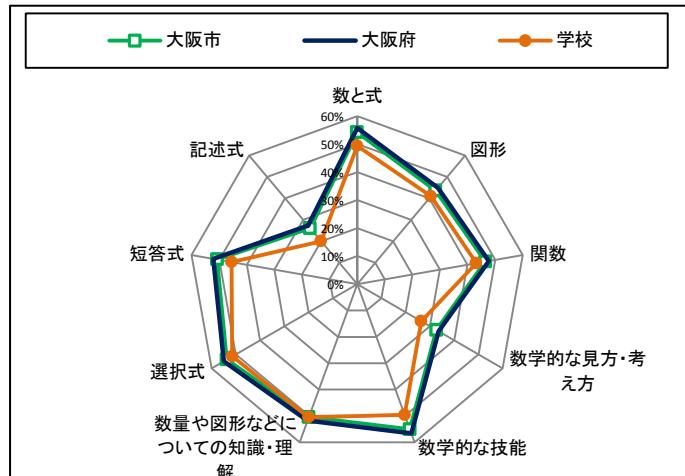


## 【数学】

### 【得点分布】

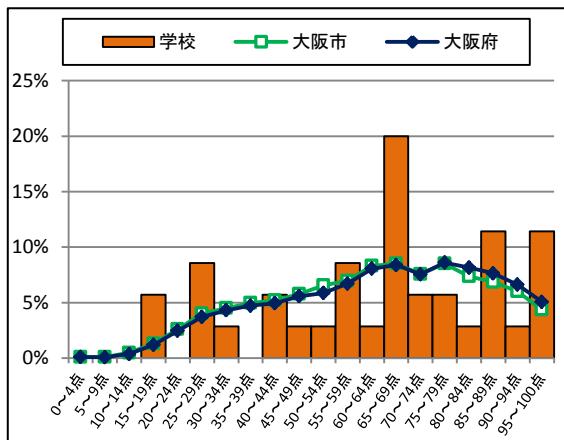


### 【領域・観点・問題別の分布】

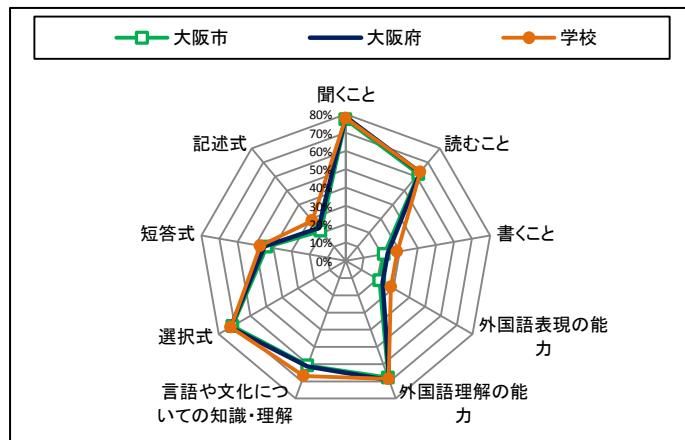


## 【英語】

### 【得点分布】



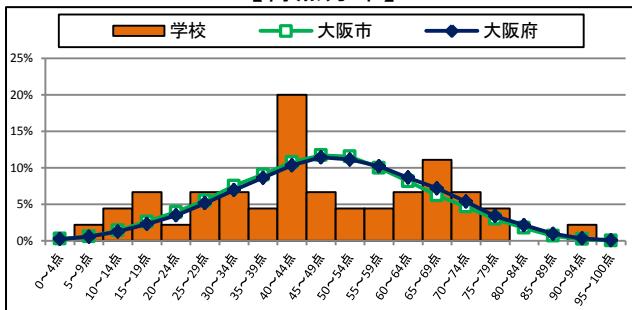
### 【領域・観点・問題別の分布】



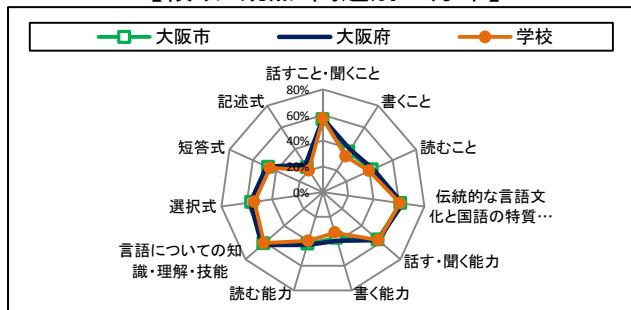
# 【第2学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

## 【国語】

【得点分布】

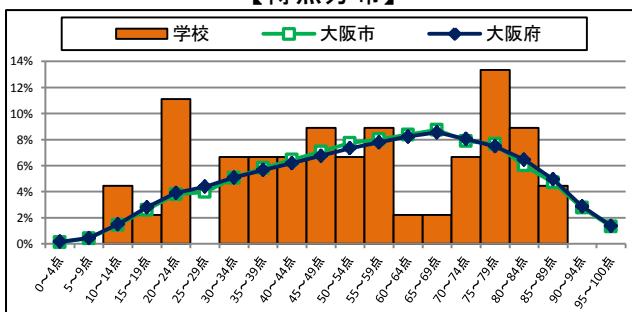


【領域・観点・問題別の分布】

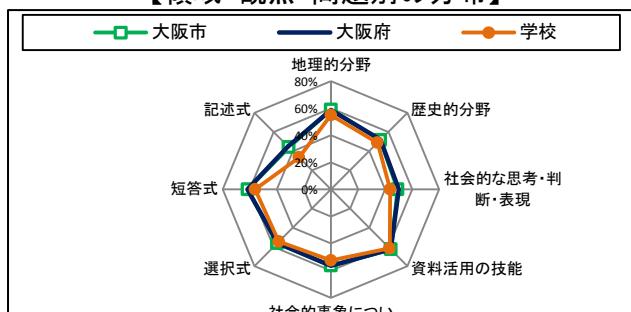


## 【社会A】

【得点分布】

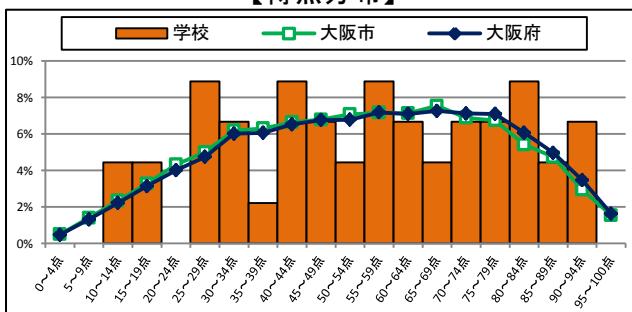


【領域・観点・問題別の分布】

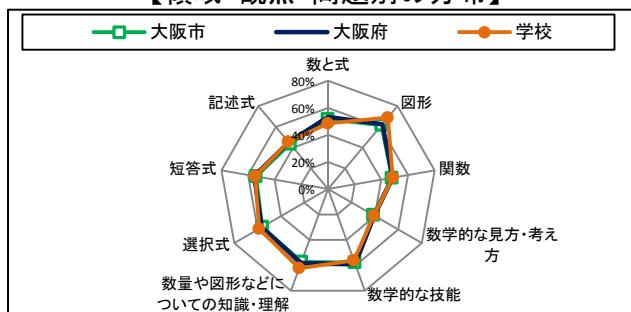


## 【数学】

【得点分布】

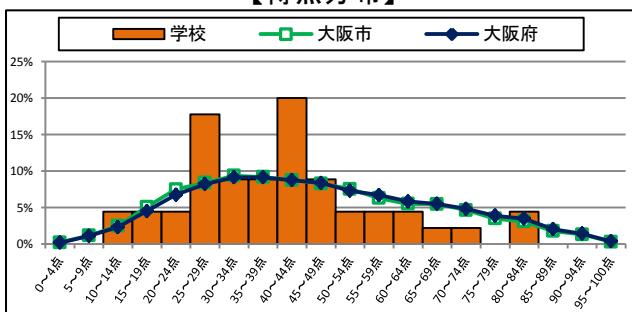


【領域・観点・問題別の分布】

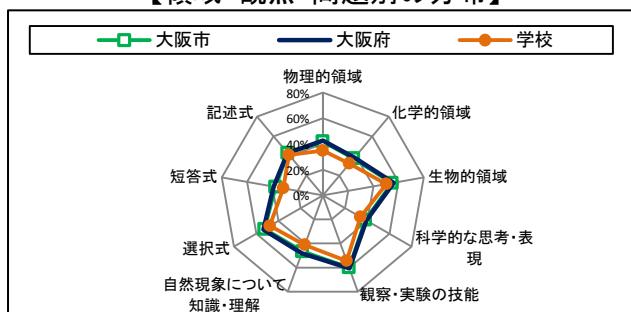


## 【理科A】

【得点分布】

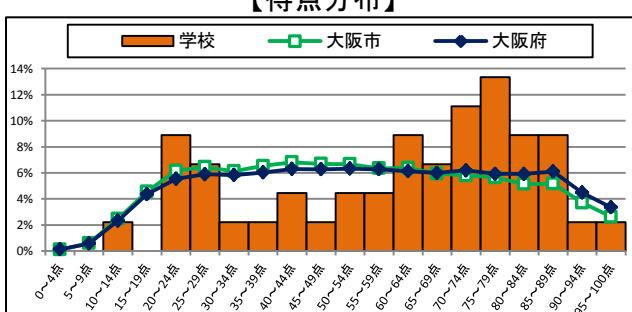


【領域・観点・問題別の分布】



## 【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

